

# 地域連携 News

Japanese Red Cross Otsu Hospital

2022  
3  
vol.7



皆様、初めまして。2月1日付けで大津赤十字病院眼科部長に就任いたしました大音壮太郎と申します。

私は平成10年に京都大学を卒業しました。同年京大眼科に入局し、大学・北野病院で眼科研修を行いました。平成13年大学院に入学し、高橋政代先生のもと網膜再生に関する研究を行いました。大学院ではiPS細胞移植治療の基礎となる研究に携わらせていただきました。平成17年から2年半、兵庫県立尼崎病院眼科医長を務め、眼科領域のあらゆる疾患に対する臨床に取り組みました。小切開経結膜硝子体手術が始まった時期でして、いち早く最新のシステムを導入し、多くの硝子体手術を行いました。平成20年から本年まで京都大学で臨床・研究・教育に取り組んできました。平成25年の1年間はNew YorkのManhattan Eye, Ear & Throat Hospitalに留学し、黄斑疾患の世界的な権威であるYannuzzi先生・Spaide先生のもとで黄斑疾患研究を行いました。

私の専門は網膜(メディカル・サージカル)です。中でも加齢黄斑変性を一番の専門とし、これまで多くの症例を診断・治療しています。

## 眼科部長の就任ご挨拶

大津赤十字病院 眼科部長 **大音 壮太郎**

大津赤十字病院では、大津日赤の伝統であるサージカル網膜診療を更に発展させたいと考えています。黄斑上膜・黄斑円孔など黄斑部の硝子体手術は私の最も得意とする領域です。黄斑上膜は矯正視力が良好でも黄斑部の形態異常や変視症の程度によっては手術適応となりますので、早めにご紹介頂ければ幸いです。裂孔原性網膜剥離に対しては早急に手術を行わせて頂きます。

またメディカル網膜治療を拡張したいと考えています。加齢黄斑変性・中心性漿液性脈絡網膜症・近視性脈絡膜新生血管・網膜静脈閉塞症・糖尿病黄斑浮腫が対象疾患です。これまでの経験を生かして、長期にわたって良好な視力が維持できるよう、最善の治療を行います。AZOOR関連疾患などの希少疾患も専門としていますので、診断に苦慮される症例は一度ご紹介ください。通院回数・治療回数がうなぎ登りに膨れあげるメディカル網膜治療に対応するためには病診連携を活用した診療体制が必要と考えています。地域の先生方と連携して、診療体制を構築したいと考えています。

私の名字は「おおと」と読みます。珍しい名字ですが、大音家のルーツは滋賀県にありまして、長浜市に先祖のお墓もごございます。これもご縁と考えています。滋賀県の眼科地域医療に貢献できるよう努力いたしますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

 日本赤十字社 大津赤十字病院 地域医療連携課

〒520-8511 滋賀県大津市長等一丁目1番35号

TEL.077-522-8535(直通) FAX.077-522-4385(直通)

**予約受付** 月曜日から金曜日(平日) 午前8時30分から午後8時00分まで  
土曜日 午前9時00分から午後1時00分まで

QRコードからホームページが  
ご覧いただけます

<https://www.otsu.jrc.or.jp/>

